

事務事業評価における総括

部 局 名	環境部	記入責任者	重田 康志
評価について（現状と課題）			
<p>【事業の達成状況について（現状）】</p> <p>環境部 4 課では全事務事業 80 事業のうち、政策的事業 25 事業の評価を実施した結果、S 評価 19 事業、A 評価 4 事業、C 評価 2 事業でした。</p> <p>成果が上がったとする S 及び A 評価が 23 事業となったことは、部内各課において事業の目的を認識し、庁内連携を図りながら取り組みを進めた結果であると考えています。</p> <p>以上のことから、令和元年度の事業については概ね順調に取り組を進めることができたと評価しています。</p> <p>【達成できた（できなかった）要因についての分析（課題）】</p> <p>環境政策課の「環境フェア開催事業」では、親子参加の体験型イベントの充実を図りました。来場者及び出展した市民団体、事業者からのアンケート結果も好評であり、啓発事業として大きな効果があることから、引き続き継続していく必要があります。</p> <p>環境保全課の「環境保全啓発指導事業」は、市内中学校への環境学習や茅ヶ崎地区相模川をきれいにする協議会と共催した河川生物相調査などを実施し、小中学生をはじめ幅広い市民へ環境保護意識等について啓発することができました。</p> <p>資源循環課の「ごみの減量化・資源化に関する啓発事業」については、指標であるごみの排出量が、これまでの減少傾向から増加に転じたことから、説明会の実施などによる啓発のさらなる強化を図りつつ、剪定枝の資源化事業や家庭ごみ有料化事業の導入が必要です。</p> <p>最後に、環境事業センターの「焼却灰等有効利用事業」は、ごみ処理基本計画に沿って、令和 15 年度の最終処分場の埋立終了に向け、更なるごみの排出抑制及び焼却残渣の再資源化など、安定した廃棄物の処理体制の構築を図る必要があります。</p>			
今後の方向性			
<p>【政策・施策目標の達成に向けた今後の方向性について】</p> <p>成果が上がった事業については、C3 成長加速化方針に基づき事業の内容や手法の見直しを図りながら、引き続き取り組みを進めていきます。</p> <p>一方で、環境部の事業は市民の生活環境の保全及び公衆衛生の向上等の視点から事業全体的大幅な見直しを図ることは非常に困難ですが、「茅ヶ崎市新型コロナウイルス感染症対策政策パッケージ」及び「茅ヶ崎市財政健全化緊急対策」に基づき、事業手法の見直しを実施し、市民生活に影響を与えないことを前提に一部の事業の休止、または規模の縮小等を図ります。</p> <p>引き続き、新型コロナウイルス感染拡大防止対策を徹底し、併せて厳しい財政状況等を考慮しながら、適宜事業の内容や手法の見直しを図ることで、持続可能な社会の実現に向け、職員一丸となって効率的かつ効果的に事業を推進してまいります。</p>			